

九州・沖縄地区 図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ

長崎市立図書館 事例報告

2016.1.25

長崎市立図書館
下田 富美子

まずは自己紹介

- * 長崎市立図書館引渡し(2007.10)～
株式会社図書館流通センタースタッフ
- * 長崎市立図書館 総括責任者(2013.4～)
- 図書館員がプライドを持って仕事ができる環境を模索中



長崎ランタンフェスティバル(2/8～2/22)

がん情報サービスPVをご覧ください

長崎市の基本情報

- * 総面積 405.81km² (長崎市統計年鑑平成26年版)
人口 434,394人 (平成27年4月末日現在)
男 201,089人 女 233,522人
世帯数 208,394世帯
- * 長崎県の県庁所在地
- * 中核市

長崎市立図書館の基軸

長崎市立図書館運営方針

■ 基本姿勢：

知識・情報を手に入れる地域の窓口となって、個人にとどまらず、地域レベルでの「知識・情報の消費者」から「知恵・情報の生産者」へと働きかけながら、「自ら考え、自ら解決する」活力ある市民社会づくりに貢献することを目指す。

■ 目指す図書館像：

市民と共に成長し続ける図書館

長崎市立図書館の基軸（補足）

長崎市立図書館の運営の基となるものです。

今、図書館の役割を再定義し、社会の様々な変化にともなって、高度化、多様化する市民の学習要求に適切に対応するための図書館、図書館員であるために、これまでの図書館の業務を見直しを進めています。

“Well-Being”

世界保健機構WHO憲章草案より

現代的 “Social Service” の達成目標として、
個人の権利や自己実現が保証され、
身体的、精神的、社会的に
良好な状態にあることを意味する概念

最低限度の生活保証のサービスだけでなく、
人間的に豊かな生活の実現を支援し、
人権を保証するための
多様な “Social Service” で達成される

図書館の役割

私たちは、これからの公共図書館の役割として、大きく3つあると考えています。

1. コミュニティ活動の結節点としてのサービス

本や視聴覚資料を無料で貸し出す、貸し本屋のようなものではなく、地域を「知」で結び付けるために、無料公開している学びの場であること

2. 自律的な学びの支援、第3の学びの場

メディアや空間、機会を通じた、家庭や学校、職場でもない、第3の学びの場として より良く生きるために自律的に学ぶ市民を支援したい

図書館の役割

3. 図書館情報サービス

情報から「経験」や「出来事」といった目に見えない価値をつくり出すサービスを、図書館が設計する

公共図書館の成果や価値を判断するのは、難しいと思います。だからこそ、職員が自分たちで図書館がつくり出すことができる、社会的便益を増やしていきたい。目標を定め、方針やスケジュールをたてて、ゴールを目指して、様々な人を巻き込みながら、市民と向き合うことで信頼が生まれると思います。

健康とは

世界保健機構WHO憲章より

病気でないとか、弱っていないと
いうことではなく、肉体的にも、精神的にも
そして社会的にも、すべてが満たされた
状態にあることをいいます

より良く生きるために

がん情報サービスは、図書館情報サービスの一部として、市民が健康な状態でより良く生きるためのサービスの1つです。

本からの知識だけでなく、様々な経験やおこった出来事も、学びとして個人だけのものではなく、居合わせた人たちとの意見を交えながら、広い視点でも考えてみる。考えたことを、言葉にしてみる。他者に分けあたえる力をつける。社会での関わりの中で大切なものを学ぶ機会を設計する。図書館はそういう場でありたいと思います。

ご清聴ありがとうございました
皆様のご活躍をお祈りします

